

平成 22 年 5 月 7 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19730483

研究課題名 (和文) 外国人児童生徒教育拡充のための学校・教員支援システムの開発

研究課題名 (英文) The development of the support system for schools / teachers about expanding the education for foreign children

研究代表者

臼井 智美 (USUI TOMOMI)

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：30389811

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：外国人児童生徒教育、日本語指導教室、教員の指導力、力量形成過程、教員研修、指導体制

1. 研究計画の概要

(1) 研究目的

本研究の目的は、日本語指導が必要な外国人児童生徒の受け入れと指導を円滑に行い、外国人児童生徒教育の質的、量的な拡充を図るための、学校・教員支援システムの開発を行うことである。

具体的には、教員個人への直接的サポートと、個々の教員の力が発揮できるようにするための学校組織を介した間接的サポートという2つの観点からシステムの構築を図る。

(2) 研究課題

学校・教員支援システムの構築のために、2つの研究課題を設定した。

研究課題Ⅰは、外国人児童生徒教育を担当する教員の指導力の中身と力量形成過程を解明することである。外国人児童生徒教育を担当する教員が必要とする指導力がいかなる知識や技術等によって構成されるのか、経験年数を経るにしたがって指導力の中身がどのように変化していくのか、あるいはどのような指導力の発揮を期待されるようになるのか、などを明らかにすることとした。

研究課題Ⅱは、外国人児童生徒教育の指導体制モデルを構築するとともに、組織診断票を開発することである。外国人児童生徒教育を効果的に実施しうる学校の指導体制モデルを構築し、指導体制づくりに必要な諸条件の整備状態を点検し改善していくための組織診断票を開発することとした。

2. 研究の進捗状況

(1) 研究方法

2つの研究課題を解明するために、次のような研究方法を採った。

研究課題Ⅰでは、第1次調査として、外国人児童生徒の指導経験が4年以上ある公立小・中学校の教員（主に日本語指導教室の担当をしている教員）に対して聞き取り調査を実施した。次いで第2次調査として、外国人児童生徒の指導経験の長短を問わず、指導経験のある教員に対して質問紙調査を実施した。

研究課題Ⅱでは、日本語指導教室の設置されている公立小・中学校を訪問し、日本語指導教室の授業参観や校長等への聞き取り調査を実施した。

(2) 研究成果

2つの研究課題の解明を試みた結果、それぞれ次のような成果を得ることができた。

研究課題Ⅰでは、2007～2008年度に実施した教員調査（聞き取り調査、質問紙調査）のデータ分析によって、外国人児童生徒の指導を担当する教員に求められる指導力の中身は、その多くが教員一般に必要とされる指導力と重なること、外国人児童生徒の指導ゆえに特別に求められる知識や技術等は、日本語指導に関する多少の知識等に限られること、などを明らかにした。また、指導力の形成過程について、1つの仮説的なパターンをモデル化して示すことができた。

研究課題Ⅱでは、学校間で見られる指導体制の相違をもたらす要因の分析を行い、学校種や外国人児童生徒の在籍状況等、いくつか

の要因の抽出を行うことができた。しかしながら、この点については、現在の分析は中間的な段階に止まっているため、引き続き詳細なデータの収集と分析が必要である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

2つの研究課題のうち、研究課題Ⅰについては、2009年度末時点において、ほぼ当初目指した成果を収めることができた。外国人児童生徒の指導を担当する教員の指導力の中身とその形成過程を明らかにしようとした理由は、指導力の計画的習得の機会である教員研修を整備していくことをねらったからである。指導力の中身とその形成過程が判明したことから、今後、外国人児童生徒教育に関する教員研修のあり方について検討していくための基盤を築くことができた。

研究課題Ⅱについては、2009年度末時点において、学校間で指導体制の相違をもたらす要因の抽出までは行った。しかしながら、まだ指導体制のモデル化には至っていない。研究最終年度である2010年度において、この作業を行っていく予定である。

4. 今後の研究の推進方策

研究課題Ⅱについて、2009年度までは百数十校の小・中学校の実態に関するデータの収集を訪問調査により行ってきた。

最終年度(2010年度)においては、これらのデータの分析を行い指導体制のモデル化を行う。さらに、指導体制の改善や構築に向けた支援方策の検討を行うため、事例校において組織改善プログラムを試行する。改善プロセスの分析を行うことによって、組織改善に資する組織診断票の開発を試みる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

①臼井智美、外国人児童生徒の指導を担当する教員の職能成長過程、大塚学校経営研究会紀要、35号、51-72頁、2010年、査読無

[学会発表] (計1件)

①臼井智美、外国人児童生徒の指導に携わる教員の指導力、関西教育行政学会、2009年11月21日、大阪私学会館

[図書] (計1件)

①臼井智美、教育開発研究所、イチからはじめる外国人の子どもの教育、2009年、208頁

[その他]

①臼井智美、外国人生徒は今 進路指導の現状と課題、日本教育新聞、2009年9月21日

②臼井智美、外国人の子どもの指導ー子ども理解からはじめる一歩ー、(文部科学省)初等教育資料、2009年9月、東洋館出版社、80-83頁

③臼井智美、多文化の子どもの支える教師の力量形成、第2回国際教育センターフォーラム発表(東京学芸大学国際教育センター)、2009年3月7日、中野サンブラザ

④臼井智美、子どものつまずきの多様な背景を知る、第9回外国人児童生徒教育フォーラム発表(東京学芸大学国際教育センター)、2008年10月4日、中野サンブラザ

⑤臼井智美、学力向上に資する教員の指導力、第1回国際教育センターフォーラム発表(東京学芸大学国際教育センター)、2008年3月1日、中野サンブラザ